

## 第4章 バックアップとリストア

### 4.1 Windows Vistaで提供されるバックアップと復元機能

Windows Vista Business/Enterprise/Ultimateのバックアップ機能としては、以下の4種類が提供されています。その他のエディションでは、以下のうち、「2.Windowsシャドウコピー（以前のバージョン）」と「4.Complete PCバックアップ」が提供されません。

1. ファイルのバックアップおよび復元
2. Windowsシャドウコピー（以前のバージョン）
3. システムの復元ポイント
4. Complete PCバックアップ

Windows Vistaよりも前のOSの場合、NTバックアップという機能が提供されていましたが、これはVistaでは提供されていません。その代わりにWindows Vistaでは、単一のバックアップツールではなく、その目的によって異なるツールが提供されています。NTバックアップという1つのツールを覚えるだけで済んでいたバックアップと復元が、煩雑になったと言えるかもしれません。逆に、OSを丸ごとバックアップ、復元するという要件や、うっかりミスで消してしまったファイルを簡単に復元させたいといった要件では、NTバックアップよりもはるかに優れた機能が提供されています。ということで、上記の4種類について、順を追って説明してきましょう。

#### ファイルのバックアップおよび復元

この機能が最も標準的なバックアップ機能です。定期的に、自分で

作成、収集したデータをバックアップおよび復元するための機能です。NTバックアップと異なり、バックアップするフォルダを指定する必要はなく、バックアップすべき文書や画像、ビデオなどのデータを自動的に収集してくれます。PCに知識のないユーザーにとっては、どのフォルダに存在するか分からない、自分のデータを自動的に判断してくれることは便利ですが、特定のデータやフォルダのみをバックアップしたいというニーズには応えてくれません。

また、バックアップ先とバックアップ対象ファイルにいくつかの制限があります。ではまず、バックアップ先パーティションの制限から見いていきましょう。

#### 「バックアップ先として指定できないパーティション」

- ・システムパーティション（OSがインストールされているパーティション）
- ・ブートパーティション（BootMgrが存在するパーティション）
- ・バックアップを取得するドライブ自身

パーティションだけでなく、これまでバックアップ先として一般的だったテープ装置のサポートがありません。現実的には、ネットワーク上のディスクやUSB HDDへバックアップすることになるでしょう。いずれにせよ、バックアップ先の記憶装置が十分に大きいという前提で、必要と思われるファイルは何でも取っておいて、復元するときに選択させるという考え方です。事前に計画したフォルダや特定のファイルを取得するという発想はありません。正直言って、「何をバックアップしているのかよく理解していない人は、そこから何かを復元しようなどという考えを起こさない」と考えるのは、私だけでしょうか……。

また、バックアップ対象にも次のような制限があります。

### 「バックアップ対象外のファイル」

- ・暗号化ファイルシステム (EFS : Encrypted File System)
- ・システムファイル
- ・一時ファイル
- ・ごみ箱
- ・FAT ファイルシステム
- ・ユーザープロファイルの設定

上記には、結構致命的なものも含まれます。それはEFSです。個人情報保護などが叫ばれるようになって、EFSを利用している企業も少なくありません。特にノートPC上の重要な文書ほどEFSをかけているわけですが、同時にバックアップを取っておきたいというのが人情です。ということで、この点に関してはWindows Vista SP1で修正されるようです。

これまで解説したバックアップ方法は、専門知識がないエンドユーザーが大容量のUSB HDDを持って余している場合に有効です。

それでは、特定のフォルダのバックアップを取りたい場合はどうすればよいでしょう？ また、SP1以前でEFSにより暗号化されたファイルのバックアップを取りたい場合はどうすればよいでしょう？ サードベンダーのツールを利用してくださいというのが回答ですが、お金をかけずにWindows Vistaの標準機能でということであれば、「RoboCopy.exe」コマンドを「/efsraw」オプション付きで使用する方法があります。これにより、特定のフォルダをEFSで暗号化されたかどうかにかかわらずバックアップできます。

RoboCopyは、XCOPYなどの旧来コピーツールよりも賢くなっています。バックアップの用途に限らず、コマンドラインが苦にならない方にはお勧めのツールです。

### リファレンス

文書番号 934172: Files that are encrypted by using the Encrypting File System (EFS) are not backed up when you use the "Back up files" option in Windows Vista

URL ▶ <http://support.microsoft.com/kb/934172/en-us>

## 4.2 Windows シャドウコピー (以前のバージョン)

Windows シャドウコピーとは、OS標準のVSS (Volume Shadow Copy Service) を利用して、ディスク上のファイルのある時点の状態 (スナップショットという) をディスクの別の領域に保存しておき、必要ときには、その別の領域からファイルを復元する機能です。このWindows シャドウコピー機能は「永続的なバックアップ」ではなく、「短期的なバックアップ」を目的としています。「永続的なバックアップ」とは、法的な要件や社内規定によって、何年間にわたって長期保存しておかなければならないような文書やアクセスログなどのバックアップを指します。一方、「短期的なバックアップ」とは、うっかりミスで削除や修正してしまった文書を以前の状態に復元しなければならないような要件に対するバックアップです。

たとえば、本書の原稿は約3か月に渡って加筆、修正していますが、「先週執筆していたあの章の内容を参照したい」ということは少なくありません。こういう場合に、Windows シャドウコピーは威力を発揮します。筆者個人は、このような長期にわたる文書作成の作業中だけ、Windows シャドウコピーの機能をオンにしています。

この機能は、Windows Server 2003の共有フォルダと“Microsoft Data Protection Manager”というサーバ製品の組み合わせで、以前より提供されていましたが、Windows VistaではローカルPC内のフォルダでも利用できるようになりました。ハードディスク容量さえ十分にあれば、かなり便利な機能です。

### Windows シャドウコピー (前のバージョン) の設定

ということで、Windows シャドウ コピーの設定をステップ・バイ・ステップで見えていきましょう。

Step  
by  
Step

#### 「Windows シャドウコピー (以前のバージョン) の設定」 ステップ・バイ・ステップ

1 [スタートメニュー] から [コンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択する (図4.1)。



図4.1 スタートメニューからプロパティを選択

2 [システム] 画面の左ペインの [タスク] で [システムの保護] を選択し (図4.2), [システムのプロパティ] 画面を開く。



図4.2 システムのプロパティを開く

3 [システムのプロパティ] 画面の [システムの保護] タブを選択し (図4.3), 保護の対象としたいディスクを選択すれば、設定は完了。

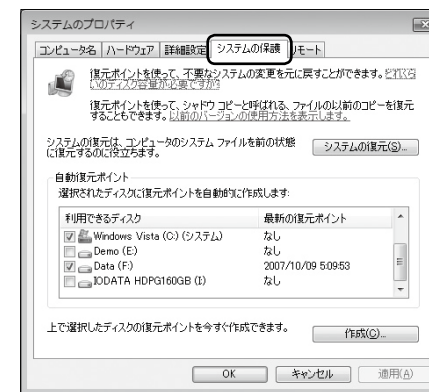


図4.3 保護対象のディスクを選択して完了

### Windows シャドウコピー (以前のバージョン) の利用

では、作成した以前のバージョンを復元する方法をステップ・バイ・ステップで見えていきましょう。

Step  
by  
Step

#### 「Windows シャドウコピー (以前のバージョン) からの復元」 ステップ・バイ・ステップ

1 復元したいフォルダもしくはファイルを右クリックし、[以前のバージョンの復元] をクリックする (図4.4)。



図4.4 以前のバージョンをクリック